

百日咳について

千葉県小児科医会 ふかさわ ちえ 深沢 千絵 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝8:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

Q1 「百日咳」とはどんな病気ですか？

「百日咳菌」という細菌に感染することで発症する感染症です。「百日間」（およそ3か月）咳が続くことに由来しています。

潜伏期間は約1週間程度で、はじめは鼻水、軽い咳といった普通のかぜのような症状です。ところが、この時期には排菌量が多いため、感染をまわりに広げるおそれがあります。

典型的な症状としては、かぜ症状が1~2週間続いた後に、「特徴的な激しい咳こみ」がみられるようになります。5~10回以上の乾いた連続した咳こみです。一連の咳こみに引き続いて息を吸う時に「ヒュー」という気道のせまくなった音が聞こえるのも特徴的です。

Q2 診断法や治療法はありますか？

鼻の奥を綿棒でぬぐって遺伝子検査を行うのが最近の診断法の主体ですが、結果が出るまでに、数日から1週間くらいかかることもあります。診断された場合は、菌を退治するための抗菌薬を飲みます。

Q3 小さな子どもがかかるとどうなりますか？ 大人もかかりますか？

乳児、とくに生後2~3か月までの乳児では重症化しやすく、命にかかわることもあります。この時期の乳児では典型的な咳がなく、息をとめてしまう無呼吸発作が主体となることも多くあります。そのほか、肺炎、けいれん痙攣、脳症といっ

た合併症もあります。

一方、ワクチンを打ったことのある年長児や大人もかかる病気で、典型的な症状をとらず長引く咳のみの症状のこともあります。症状は軽くても、小さな赤ちゃんに感染させてしまうこともあるので注意が必要です。

Q4 ワクチンはありますか？

四種混合(五種混合*)ワクチン、三種混合ワクチンに、百日咳のワクチンが含まれており、今の子どもたちは生後2か月から四種混合(五種混合)ワクチンとして定期接種を受けることができます。

ところが、このワクチンの免疫効果は、小学校に入るころには徐々に落ちていってしまいます。海外では、学童期に百日咳ワクチンの定期接種が行われている国も多いですが、日本では、学童期以降に百日咳のワクチンの定期接種はありません。日本小児科学会は、5~6歳および11~12歳での三種混合ワクチンの任意接種を受けることをおすすめしています。かかりつけの小児科医に相談してみましょう。



※五種混合ワクチンは、2024年4月より接種可能となる予定です